

# Cisco Aironet 機器のパスワード回復手順

Document ID: 9215

Updated: 2015 年 10 月 02 日



[PDF のダウンロード](#)

[印刷](#)

[フィードバック](#)

## 関連製品

- [Cisco Aironet 1130 AG シリーズ](#)
- [Cisco Aironet 1300 シリーズ](#)
- [Cisco Aironet 1400 シリーズ](#)
- [Cisco Aironet 350 シリーズ](#)
- [Cisco Aironet 350 ワークグループブリッジ](#)
- [Cisco Aironet 350 ワイヤレスブリッジ](#)
- [Cisco Aironet 1100 シリーズ](#)
- [Cisco Aironet 340 シリーズ](#)
- [Cisco Aironet 1230 AG シリーズ](#)
- [Cisco Aironet 1200 シリーズ](#)
- [+ 詳細情報](#)

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[表記法](#)

[アクセス ポイント](#)

[OS の確認](#)

[AP への接続](#)

[AP のリセット : 11.07 よりも前のバージョンの VxWorks](#)

[AP のリセット : 11.07 以降のバージョンの VxWorks](#)

[AP のリセット : Cisco IOS ソフトウェア](#)

[AP のリセット : Cisco IOS ソフトウェアを実行する AP 350](#)

[ベースステーション](#)

[リセット ボタンによるデフォルトの設定](#)

[クライアントアダプタ](#)

[SSID](#)

[デフォルトの設定](#)

[CEM パスワード](#)

[WEP キー](#)

[Aironet 1410 シリーズブリッジ](#)

[Aironet 1310 シリーズブリッジ](#)

[Aironet 350 シリーズブリッジ](#)

[ソフトウェアバージョン 11.xx 以降の場合](#)

[Aironet 340 シリーズブリッジ](#)

[ソフトウェアバージョン 8.65 以降の場合](#)

[8.65 よりも前のソフトウェアバージョンの場合](#)

[ワークグループブリッジ](#)

[関連情報](#)

[Cisco サポート コミュニティ - 特集対話](#)

## 概要

このドキュメントでは、さまざまな Cisco Aironet Wireless LAN ( WLAN; ワイヤレス LAN ) 機器でパスワードを回復する方法やデフォルト設定を復元する方法を説明します。

注: 他の Cisco プラットフォームとは異なり、Aironet のハードウェアとソフトウェアはパスワードの回復を許可しません。その代わりに、機器をデフォルトの状態に戻す必要があり、そこから再設定することができます。

注: 新しいモデル Access Point ( AP ) を ( 1260、3500、1600、2600、3600、1700、2700、3700、1830、または 1850 シリーズのような ) 使用したら、[自律 Aironet アクセスポイントについては Cisco IOS コンフィギュレーションガイド](#)を参照して下さい。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

### 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

## アクセス ポイント

Aironet AP で現在使用中である 2 つのオペレーティング システム ( OS ) があります。ユニットが動作している OS によって、パスワード回復に使用する手順が決定されます。

### OS の確認

VxWorks OS は次のユニットで動作しています。

- Aironet 340 シリーズ AP
- Cisco Aironet 350 シリーズ AP の一部
- Aironet 1200 シリーズ AP の一部 ( AP 1220 と呼ばれている )

注: VxWorks の GUI には、黄色の帯に黒と赤のテキストが使われています。Cisco ロゴがページの右上隅にあります。

Cisco IOS か。ソフトウェア OS 実行:

- Aironet 1100 シリーズ AP
- 別名 AP 1230 である Aironet 1200 シリーズ AP、
- Cisco Aironet 350 シリーズ AP の一部

注: Cisco IOS ソフトウェアの GUI は大部分が緑と灰色で、黒と青のテキストが使われています。Cisco ロゴがページの左上隅にあります。

VxWorks で AP 設定をリセットする手順は、バージョン 11.07 で変更されました。

AP ソフトウェアのすべてのバージョンで、回復を実行するにはまず最初に AP に接続する必要があります。その後、ユニットをリセットする手順を実行します。

## [AP への接続](#)

AP に接続するには、このセクションの手順を実行します。

注: AP 1100 にはコンソールポートがないので、ここで説明する手順は当てはまりません。Telnet またはブラウザ アクセスができないのであれば、ユニットを工場出荷時のデフォルトにリセットして、もう一度すべてを再設定する必要があります。

注: コンソールポートのある AP の場合は、コンソールを使用してパスワード回復を実行できます。コンソールポートに接続するには、コンソールケーブルを使用します。ストレートケーブルなどの他のケーブルは、コンソールポートでは動作しません。

1. 9 ピン オスと 9 ピン メスのコネクタの付いたストレート型ケーブルを使用して、コンピュータの COM 1 または COM 2 ポートを AP の RS-232 ポートに接続します。1200 シリーズの AP モデルでは、コンソールポートは RJ-45 コネクタであり、Cisco ルータやスイッチに使用されているのと同じコンソールケーブルを使用できます。詳細は、『[コンソールおよび補助ポートに関するケーブル接続ガイド](#)』を参照してください。
2. コンピュータでターミナルエミュレーションプログラムを起動します。注: ここでは、Microsoft ハイパーターミナルを使用した場合の手順を説明します。他のプログラムでも手順はほぼ同じです。
3. [Connection Description] ウィンドウに名前を入力します。
4. 接続用のアイコンを選択します。
5. [OK] をクリックします。
6. [Connection Description] ウィンドウでケーブルが接続されるポートを選択するために [Connect] プルダウンメニューを使用します。
7. [OK] をクリックします。
8. [Port Settings] ウィンドウで次の選択を行います。ビット/秒 (ボー) : 9600 データビット : 8 パリティ : なし ストップビット : 1 フロー制御 : なし
9. [OK] をクリックします。
10. Enter キーを押します。

## [AP のリセット : 11.07 よりも前のバージョンの VxWorks](#)

AP を設定できるパスワードを忘れた場合、設定全体を工場出荷時のデフォルトにリセットする必要があります。次の手順を使用して、AP 設定をリセットし、新しいパスワードを割り当てます。

AP 設定をリセットするためにこれらのステップを完了して下さい:

1. 電力がオンになっているとき、Reset ボタンを押し、保持して下さい。
2. 電力のプラグを抜き、5 -10 秒のための Reset ボタンを保持し続けて下さい。
3. ボタン リセットされて保持し続けるように電源のプラグを差し込んで下さい。
4. Reset ボタンをリリースして下さい。

このプロシージャは AP およびブリッジのほとんどすべてのモデルに適用されます。

注: 次の手順はパスワードを回復するものではありません。次の手順をすべて実行すると、現在の設定を削除し、AP 設定を工場出荷時のデフォルトに戻すことになります。また、インストール キーも保持します。インストール キーがないと AP は機能しません。

## ブート ブロック バージョンの確認

AP をリセットするために使用する手順は、AP のブート ブロックのバージョンによって異なります。次の手順を使用して、どのブート ブロック バージョンが使用中の AP にあるのかを検出します。次に、[バージョン 1.01 またはその前](#)か、[バージョン 1.02 以降](#)の場合に適切な手順を使用します。

[Summary Status] 画面が表示されたら、AP をリブートします。リブートするには、電源コードを抜き差しするか、**Ctrl+X** を押します。

AP がリブートすると、システムの紹介情報が表示されます。ブート ブロック バージョンは、このテキストの 3 行目に表示され、「Bootstrap Ver」というラベルが付いています。ブート ブロック バージョンが 1.01 である場合、紹介テキストは次のようになっています。

```
System ID: 00409625854D
Motherboard: MPC860 50MHz, 2048KB FLASH, 16384KB DRAM, Revision 20
Bootstrap Ver. 1.01: FLASH, CRC 4143E410 (OK)
Initialization: OK
```

## ブート ブロック バージョン 1.01 またはそれよりも前のバージョンの場合のリセット

AP のブート ブロック バージョンが 1.01 またはそれよりも前である場合、次の手順を実行すると、AP がリセットされます。

1. AP に接続します。
2. [OK] をクリックします。
3. **Enter** キーを押します。
4. [Summary Status] 画面が表示されたら、AP をリブートします。リブートするには、電源コードを抜き差しするか、**Ctrl+X** を押します。次に示すのが、[Summary Status] 画面の例です。

```
BR350-5d9a2c      [Cisco 350 Series Bridge 12.00T]      Uptime: 00:13:09

Associations
  [Clnts: 0] of 0   [Rptrs: 0] of 0   [Brdgs: 0] of 1   [APs]: 1

Events
  Time          Severity          Description
  00:02:25 (Info): Successfully configured DHCP Parameters
  00:01:08 (Warning): No DHCP OFFER's received, restarting the negotiation in the
  background

Network Ports
  Device          Status          Mb/s          IP Addr.          MAC Addr.
  [Ethernet]      Up              100.0         192.168.1.102     0040965d9a2c
  [Rt Radio]      Up              11.0          192.168.1.102     0040965d9a2c

(==[Diagnostics]=)
(Auto Apply On) :Bottom, :Down, ^R, =, <ENTER>, or [Link Text]: _
```

5. 次のメッセージが表示されたら **Esc** キーを押します。Type <esc> within 5 seconds for menu
6. 次の手順を実行して、AP インストール キーを AP DRAM にコピーします。C キーを押して、[Copy file] を選択します。1 キーを押して、[DRAM] を選択します。AP インストール キーの選択文字を押します。注: 設定ファイルのリストにファイル VAR インストール キーが含まれている場合、そのファイルをインストール キーとともに DRAM にコピーする必要があります。VAR インストール キーを DRAM にコピーするには、C を押して [Copy file] を選択し、1 を押して [DRAM] を選択し、VAR インストール キーの選択文字を押します。
7. 次の手順を実行して、AP 設定メモリを再フォーマットします。Shift+1 を押して、[FORMAT memory bank] を選択します。2 キーを押して、[Config] を選択します。Shift+Y を押して **FORMAT** コマンドを確認します。
8. 次の手順を実行して、インストール キーを設定メモリにコピーし戻します。C キーを押して、[Copy file] を選択します。2 キーを押して、[Config] を選択します。AP インストール キーの選択文字を押します。
9. AP ファームウェアを実行するには、R を押して [Run] を選択します。表示されるファームウェアファイルの文字を選択します。AP がファームウェアを起動する間、次のメッセージが表示されます。Inflating firmware file name
10. [Express Setup] 画面が表示されたら、ターミナル エミュレータまたはインターネット ブラウザで AP の再設定を開始します。

## ブートブロックバージョン 1.02 以降の場合のリセット

AP のブート ブロックバージョンが 1.02 以降である場合、次の手順を実行すると、AP がリセットされます。

1. AP に接続します。
2. [OK] をクリックします。
3. **Enter** キーを押します。
4. [Summary Status] 画面が表示されたら、AP をリブートします。リブートするには、電源コードを抜き差しするか、Ctrl+X を押します。次に示すのが、[Summary Status] 画面の例です。

```

BR350-5d9a2c      [Cisco 350 Series Bridge 12.00T]      Uptime: 00:13:09

Associations
  [Clnts: 0] of 0  [Rptrs: 0] of 0  [Brdgs: 0] of 1  [APs]: 1

Events
  Time          Severity          Description
  00:02:25 (Info): Successfully configured DHCP Parameters
  00:01:08 (Warning): No DHCP OFFER's received, restarting the negotiation in the
background

Network Ports
  Device          Status          Mb/s          IP Addr.          MAC Addr.
[Ethernet]        Up              100.0         192.168.1.102     0040965d9a2c
[Rt Radio]        Up              11.0          192.168.1.102     0040965d9a2c

(==[Diagnostics]=)
(Auto Apply On) :Bottom, :Down, ^R, =, <ENTER>, or [Link Text]: _

```

5. メモリ ファイルが見出しメモリの下でリストされている時: ファイルは、ブート ブロック メニューに達するために 5 秒以内に **CTRL-W** を押します。
6. 次の手順を実行して、AP インストール キーを AP DRAM にコピーします。C キーを押して、[Copy file] を選択します。1 キーを押して、[DRAM] を選択します。AP インストール キーの選択文字を押します。注: 設定ファイルのリストにファイル VAR インストール キーが含まれている場合、そのファイルをインストール キーとともに DRAM にコピーする必要があります。VAR インストール キーを DRAM にコピーするには、C を押して [Copy file] を選択し、1 を押して [DRAM] を選択し、VAR インストール キーの選択文字を押します。
7. 次の手順を実行して、AP 設定メモリを再フォーマットします。CTRL-Z を押し、押して下さい! FORMAT memory bank を利用可能な オプションから選択するため。2 キーを押して、[Config] を選択します。Y を押して、FORMAT コマンドを確認します。
8. 次の手順を実行して、インストール キーを設定メモリにコピーし戻します。C キーを押して、[Copy file] を選択します。2 キーを押して、[Config] を選択します。AP インストール キーの選択文字を押します。
9. AP ファームウェアを実行するには、R を押して [Run] を選択します。表示されるファームウェア ファイルの文字を選択します。AP がファームウェアを起動する間、次のメッセージが表示されます。Inflating firmware file name
10. [Express Setup] 画面が表示されたら、ターミナル エミュレータまたはインターネット ブラウザで AP の再設定を開始します。

## [AP のリセット : 11.07 以降のバージョンの VxWorks](#)

次の手順を実行して、バージョン 11.07 以降の AP をリセットします。

1. AP に接続します。
2. [Summary Status] 画面が表示されたら、AP をリブートします。リブートするには、電源コードを抜き差しするか、Ctrl+X を押します。次に示すのが、[Summary Status] 画面の例です。



```

BR350-5d9a2c      [Cisco 350 Series Bridge 12.00T]      Uptime: 00:13:09

Associations
  [Clnts: 0] of 0   [Rptrs: 0] of 0   [Brdgs: 0] of 1   [APs]: 1

Events
  Time          Severity          Description
  00:02:25 (Info): Successfully configured DHCP Parameters
  00:01:08 (Warning): No DHCP OFFER's received, restarting the negotiation in the
background

Network Ports
  Device          Status          Mb/s          IP Addr.          MAC Addr.
[Ethernet]       Up              100.0         192.168.1.102     0040965d9a2c
[Rt Radio]       Up              11.0          192.168.1.102     0040965d9a2c

===[Diagnostics]===
(Auto Apply On) :Bottom, :Down, ^R, =, <ENTER>, or [Link Text]: _

```

3. AP リブートおよび Summary Status 画面が再現するとき、発行して下さい: **resetall** コマンド。注: ログインを必要としないときにユーザに対して読み取り専用形式でのブラウズを許可していない場合、[Summary Status] 画面は表示されません。その代わりに、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。ユーザ名とパスワードを入力します。すると、次のプロンプトが表示されます。Authentication Failed - Retry? (y/n)注: 質問には n と答えます。発行現在できます: **resetall** コマンド。ユーザに対して読み取り専用形式でのブラウズを許可するかしないかを決定するために、[User Manager Setup] を使用します。

 Enabled  Disabled', 'Allow Read-Only Browsing without Login?  yes  no', and 'Protect Legal Credit Page?  yes  no'. At the bottom are buttons for 'Apply', 'OK', 'Cancel', and 'Restore Defaults'."/>

この時点で正常に発行しなかったら: **resetall** コマンドは最終的な解決策として、この資料の [ブートブロックバージョン 1.02 またはそれ以降 セクションのためのリセット](#) のステップを完了します。

4. **Enter** キーを押します。
5. 発行した後: **resetall** コマンドは、はい入ります。注: 先のバージョンではより 12.01、: **resetall** コマンドは 2 分だけの間有効、直後に AP リブートです。発行しないし、確認すれ

ば: 2 分内の **resetall** コマンドは、AP を再度リブートします。バージョン 12.01 を使って: **resetall** コマンドは 4 分の間有効です。

6. **Enter** を押してコマンドを確認します。

7. [Express Setup] 画面が表示されたら、ターミナル エミュレータまたはインターネット ブラウザで AP の再設定を開始します。

## AP のリセット : Cisco IOS ソフトウェア

このセクションの手順を実行して、Cisco IOS ソフトウェアをベースとした AP をリセットします。

**注:** Cisco IOS ソフトウェア ベースの AP には、ユーザ名とパスワードの組み合わせを含むデフォルト設定があります。ユーザ名とパスワードの両方が「Cisco」であり、大文字と小文字が区別されます。工場出荷時のデフォルトにリセットした後、GUI または Command-Line Interface ( CLI; コマンドライン インターフェイス ) でユーザ名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されたら、両方に「Cisco」と入力してください。

CLI で特権コマンド プロンプト **ap#** が利用可能である場合、**write erase** コマンドと **reload** コマンドによってスタートアップ コンフィギュレーションが消去され、ユニットがリセットされます。

GUI が利用可能である場合は、[System Software] > [System Configuration] の順に選択します。[Reset to Defaults] ボタンを押します。

十分な特権がないために GUI も CLI も利用できない場合は、次の手順を実行して MODE ボタンを使用します。

1. AP から電源の接続を解除します。外部電源用の電源ジャックまたはインライン パワー用のイーサネット ケーブルの接続を解除します。
2. 電源を AP に再接続するときには **[MODE]** ボタンを押し続けます。
3. ステータス LED がオレンジになるまで **MODE** ボタンを押し続け、その後、ボタンを放します。ステータス LED は、約 1 ~ 2 秒でオレンジになります。
4. AP がリブートした後、Web ブラウザ インターフェイス、Telnet インターフェイス、または Cisco IOS ソフトウェア コマンドで AP を再設定します。**注:** AP は次を含む工場出荷時のデフォルトで設定されます。DHCP の IP アドレスを受信するように設定された IP アドレスデフォルトのユーザ名とパスワードである「Cisco」

## AP のリセット : Cisco IOS ソフトウェアを実行する AP 350

このセクションにある手順を実行して、Cisco IOS ソフトウェアを実行する AP 350 をリセットします。

**注:** Cisco IOS ソフトウェア ベースの AP には、ユーザ名とパスワードの組み合わせを含むデフォルト設定があります。ユーザ名とパスワードの両方が「Cisco」であり、大文字と小文字が区別されます。工場出荷時のデフォルトにリセットした後、GUI または CLI でユーザ名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されたら、両方に「Cisco」と入力してください。

CLI で特権コマンド プロンプト **ap#** が利用可能である場合、**write erase** コマンドと **reload** コマンドによってスタートアップ コンフィギュレーションが消去され、ユニットがリセットされます。



GUI が利用可能である場合は、[System Software] > [System Configuration] の順に選択します。  
[Reset to Defaults] ボタンを押します。

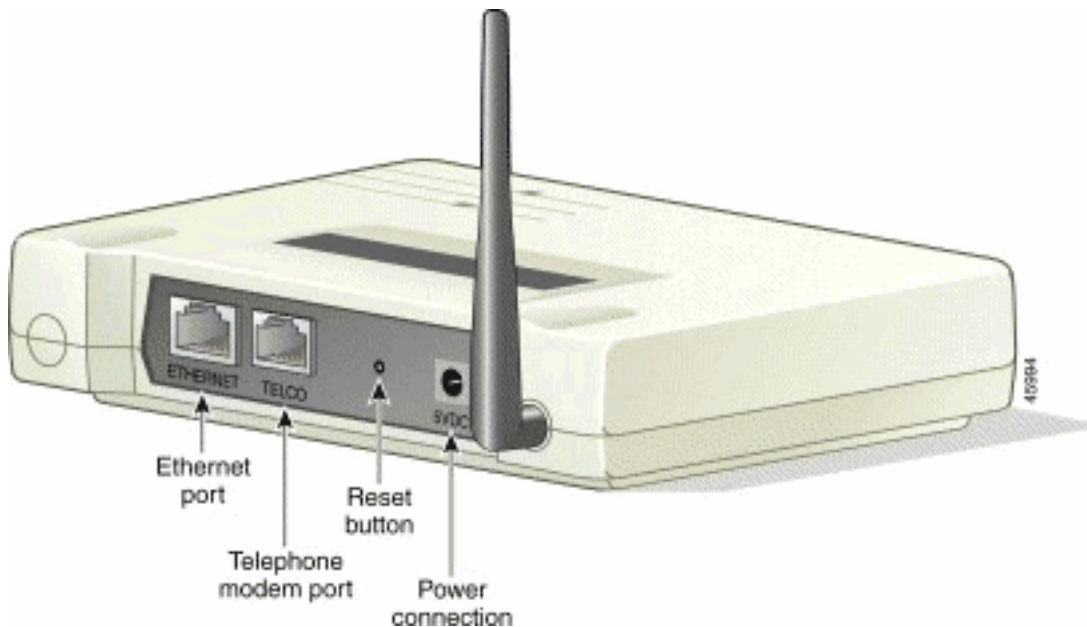
AP350 には、AP を工場出荷時のデフォルトにリセットする MODE ボタンがありません。そのため、AP350 で十分な特権を持つ GUI と CLI がどちらも利用できない場合、次の手順を実行して現在の設定を削除し、CLI を使用してアクセス ポイント設定全体を工場出荷時のデフォルトに戻します。

1. 電力供給を中止してから供給することで、アクセス ポイントをリブートします。コマンドプロンプトが表示されてアクセス ポイントがイメージを立ち上げ始めるまでアクセス ポイントをブートします。CLI に次の行が表示されたら、**Esc** キーを押します。 : /<image name>  
... #####  
#####  
#####  
#####
2. **Esc** キーを押すと、次の情報が CLI 画面に表示されます。Xmodem file system is available.  
flashfs[0]: filesystem check interrupted!The system has been interrupted, or encountered an error  
during initialization of the flash filesystem. The following  
commands will initialize the flash filesystem, and finish  
loading the operating system software:    flash\_init  
         ether\_init  
         tftp\_init  
         bootap:
3. ap: プロンプトで、**flash\_init** コマンドを発行します。ap: **flash\_init** Initializing Flash...  
flashfs[0]: 142 files, 6 directories flashfs[0]: 0 orphaned files, 0 orphaned directories  
flashfs[0]: Total bytes: 7612416 flashfs[0]: Bytes used: 3407360 flashfs[0]: Bytes  
available: 4205056 flashfs[0]: flashfs fsck took 0 seconds. ...done initializing Flash.
4. **dir flash:** フラッシュの内容を表示し、**config.txt** コンフィギュレーション ファイルを検索します。ap: **dir flash:** Directory of flash:/ 3 -rwx 223 <date> env\_vars 4 -rwx 2190 <date>  
**config.txt** 5 -rwx 27 <date> private-config 150 drwx 320 <date> c350-k9w7-mx.122-13.JA  
4207616 bytes available (3404800 bytes used)
5. **config.txt** ファイルの名前を **config.old** に変更します。ap: **rename flash:config.txt**  
**flash:config.old**
6. **reset** コマンドを発行して 350 をリブートします。ap: **reset** Are you sure you want to reset  
the system (y/n)?y System resetting..Xmodem file system is available. flashfs[0]: 142  
files, 6 directories flashfs[0]: 0 orphaned files, 0 orphaned directories flashfs[0]: Total  
bytes: 7612416 flashfs[0]: Bytes used: 3407360 flashfs[0]: Bytes available: 4205056  
flashfs[0]: flashfs fsck took 0 seconds. Reading cookie from flash parameter block...done.  
Base ethernet MAC Address: 00:40:96:41:e4:df Loading "flash:/c350-k9w7-mx.122-13.JA/c350-  
k9w7-mx.122-13.JA"...##### **注:** AP は次を含む工場出荷時のデフォルトで設定されます。  
DHCP の IP アドレスを受信するように設定された IP アドレスデフォルトのユーザ名とパス  
ワードである「Cisco」
7. Cisco IOS ソフトウェアがすべてロードされ、接続が再確立された後、フラッシュから  
**config.old** ファイルを削除します。**del** フラッシュするを発行して下さい: CLI からのイネー  
ブルになったプロンプトの **config.old** Cisco IOSソフトウェアコマンド。ap#**del**  
**flash:config.old** Delete filename [config.old] Delete flash:config.old [confirm] ap#

## ベースステーション

### リセット ボタンによるデフォルトの設定

リセット ボタンはベースステーションの背面にある小さな穴の中にあります。このボタンを使  
って、ベースステーションの設定パラメータをデフォルト値にリセットします。



リセット ボタンをアクティブにするには、まっすぐにしたペーパー クリップをこの小さな穴に挿入してすべての LED が点灯したままになるまでボタンを押します。ペーパー クリップを外します。ステータス LED がオレンジで点滅して、ベース ステーションが次のデフォルト パラメータ値になることを示します。

```
Radio Network Name -- tsunami
WEP Encryption Key -- 3031323334353637383930313233
Network Type -- Infrastructure
Data Rate -- Auto
Encryption -- Enabled
Authentication Type -- Open
Encryption -- 128-bit Encryption
Association -- Mixed Cells Allowed
```

ワイヤレス PC を使用するときベース ステーションの設定パラメータを希望する値に設定する方法は、『[ベース ステーションの設定](#)』を参照してください。

## クライアント アダプタ

クライアント アダプタにはパスワードは存在ませんが、適切な操作のために重要であるその他のパラメータが存在します。次のパラメータがあります。

- [Service Set Identifier \( SSID \)](#)
- [Client Encryption Manager \( CEM \) パスワード](#)
- [Wired Equivalent Privacy \( WEP \) キー](#)

これらのパラメータをリセットする必要があると判断した場合、このセクションの手順を実行します。

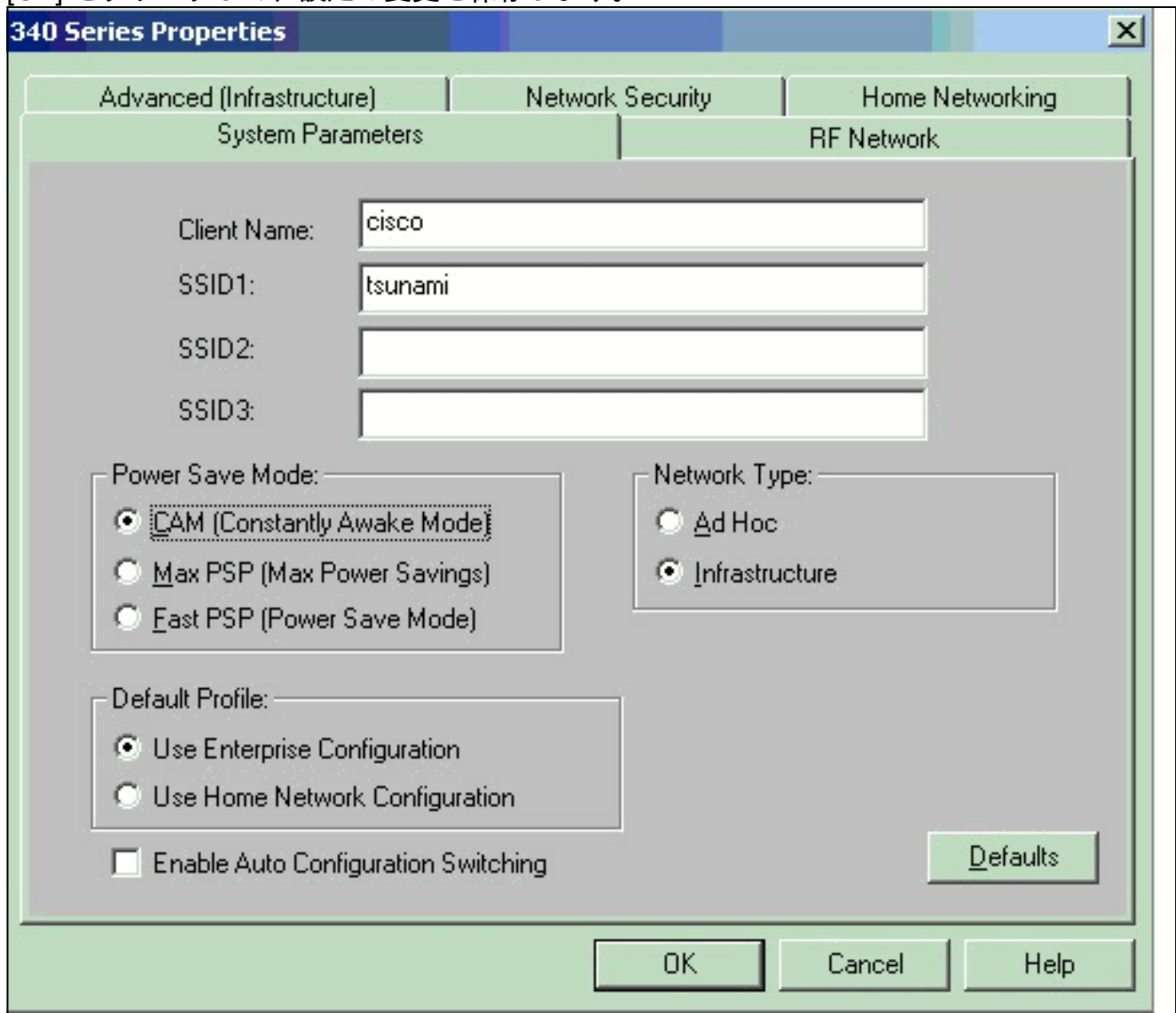
### SSID

本来設定されていたのと同じ方法で SSID をリセットできます。次の手順で Aironet Client Utility ( ACU ) を使用します。

1. [Commands] メニューをクリックします。
2. [Edit Properties] を選択します。
3. [System Parameters] タブで、SSID に正しい値を入力します。正しい SSID を取得するには

、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

4. [OK] をクリックして、設定の変更を保存します。



## デフォルトの設定

クライアントアダプタをデフォルトに設定するには、[System Parameters] タブをクリックします。パネルの右下にある [Defaults] をクリックします。

## CEM パスワード

CEM は、Client Encryption Manager の略語です。この CEM で、クライアントアダプタの現在のスタティック WEP キー設定を表示し、新しいスタティック WEP キーを入力して、WEP をイネーブルにするか、既存のスタティック WEP キーを上書きできます。CEM を動作させる方法については、『[CEM](#)』を参照してください。

CEM を実行するにはパスワードが必要です。CEM は WEP キーの追加または変更を許可します。このパスワードをなくしたり忘れてしまった場合は、デフォルトのパスワード「Cisco」を試してみてください。CEM の以前のバージョンの場合は、デフォルトパスワード「Aironet」を試してみてください。デフォルトパスワードが機能しない場合、CEM ユーティリティを再インストールする必要があります。

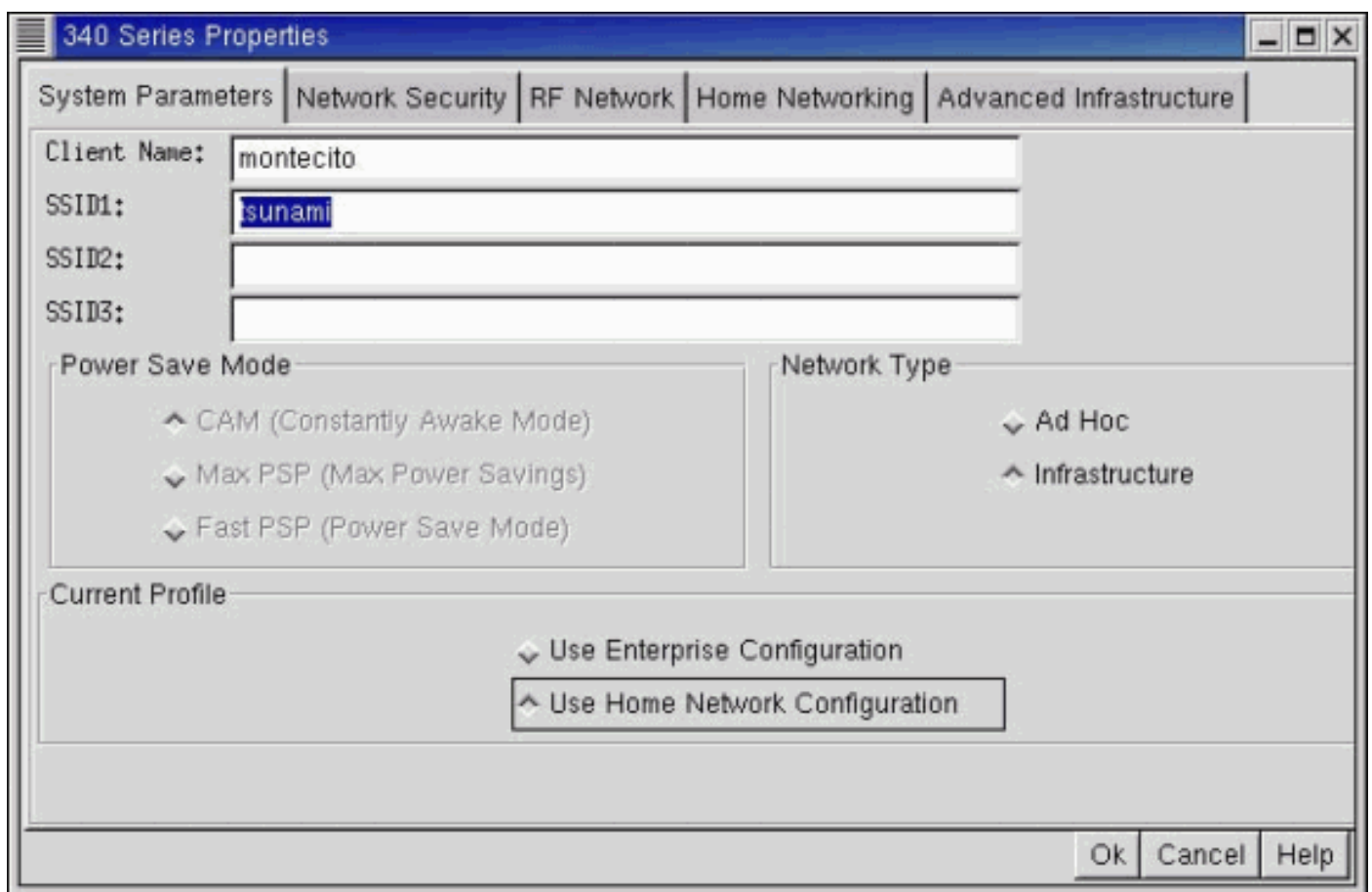
## Windows システム

Microsoft Windows システムにユーティリティをインストールする方法については、次のドキュメントを参照してください。

- [『Windows 95 への Cisco Aironet 340/350 シリーズ クライアント アダプタ用のドライバおよびユーティリティのインストール』](#)
- [Cisco Aironet 340/350 シリーズ クライアント アダプタ用の Windows 2000 ドライバおよびユーティリティのインストール](#)
- [『Cisco Aironet 340/350/CB20A ワイヤレス LAN クライアント アダプタ インストール インストレーションガイド Windows 版』 \(OL-1394-06\)](#)

## [Linux システム](#)

Linux システムにユーティリティをインストールする方法は、『[Cisco Aironet ワイヤレス LAN アダプタ インストール インストレーションガイド Linux 版](#)』を参照してください。



注: CEM 機能は、Linux ドライバ/ユーティリティ パッケージのバージョン 1.5.000 を実行するコンピュータの ACU に含まれています。このバージョンを実行する場合、CEM 機能を復元するために ACU を再インストールする必要があります。

## [WEP キー](#)

WEP キーが最初に設定されると、クライアント アダプタ カードの NVRAM に書き込まれます。キーの表示や消去ができなくても、新しいキーで上書きすることができます。

WEP キーを再入力する必要がある場合、ワイヤレス ネットワークに接続するためにネットワーク管理者に正しいキーについて問い合わせてください。

WEP キーの設定方法は、『[Wired Equivalent Privacy \( WEP \) の設定](#)』を参照してください。

## Aironet 1410 シリーズブリッジ

このセクションの手順を実行して、Cisco IOS ソフトウェアをベースとしたブリッジをリセットします。

注: Cisco IOS ソフトウェア ベースの AP には、ユーザ名とパスワードの組み合わせを含むデフォルト設定があります。ユーザ名とパスワードの両方が「Cisco」であり、大文字と小文字が区別されます。工場出荷時のデフォルトにリセットした後、GUI または CLI でユーザ名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されたら、両方に「Cisco」と入力してください。

CLI で特権コマンドプロンプト `ap#` が利用可能である場合、**write erase** コマンドと **reload** コマンドによってスタートアップ コンフィギュレーションが消去され、ユニットがリセットされます。

GUI が利用可能である場合は、[System Software] > [System Configuration] の順に選択します。  
[Reset to Defaults] ボタンを押します。

十分な特権がないために GUI も CLI も利用できない場合は、次の手順を実行して MODE ボタンを使用します。

1. ブリッジのパワー インジェクタから電源の接続を解除します。外部電源用の電源ジャックの接続を解除します。
2. 電源をブリッジ パワー インジェクタに再接続するときには **MODE** ボタンを押し続けます。
3. ステータス LED がオレンジになるまで **MODE** ボタンを押し続け、その後、ボタンを放します。ステータス LED は、約 1 ~ 2 秒でオレンジになります。
4. ブリッジがリブートした後、Web ブラウザ インターフェイス、Telnet インターフェイス、または Cisco IOS ソフトウェア コマンドでブリッジを再設定します。注: AP は次を含む工場出荷時のデフォルトで設定されます。DHCP の IP アドレスを受信するように設定された IP アドレス。DHCP サーバがない場合、HTTP/HTTPS または Telnet を使ってデフォルトの IP アドレス 10.0.0.1 でブリッジにアクセスできます。Telnet または GUI 経由でブリッジへのアクセス権を取得すると、ブリッジの IP アドレスを変更することができます。注: このデフォルトの IP アドレス 10.0.0.1 が利用可能なのは、短い期間だけです。そのため、自分自身の IP アドレスをその期間内に必ず割り当ててください。デフォルトのユーザ名とパスワードである「Cisco」

## Aironet 1310 シリーズブリッジ

このセクションの手順を実行して、Cisco IOS ソフトウェアをベースとしたブリッジをリセットします。

注: Cisco IOS ソフトウェア ベースの AP には、ユーザ名とパスワードの組み合わせを含むデフォルト設定があります。ユーザ名とパスワードの両方が「Cisco」であり、大文字と小文字が区別されます。工場出荷時のデフォルトにリセットした後、GUI または CLI でユーザ名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されたら、両方に「Cisco」と入力してください。

CLI で特権コマンドプロンプト `ap#` が利用可能である場合、**write erase** コマンドと **reload** コマンドによってスタートアップ コンフィギュレーションが消去され、ユニットがリセットされます。



。

GUI が利用可能である場合は、[System Software] > [System Configuration] の順に選択します。  
[Reset to Defaults] ボタンを押します。

Aironet 1300 シリーズ ブリッジには、AP を工場出荷時のデフォルトにリセットする MODE ボタンがありません。そのため、十分な特権を持つ GUI と CLI がどちらも利用できない場合、次の手順を実行して現在の設定を削除し、CLI を使用してブリッジ設定全体を工場出荷時のデフォルトに戻します。

1. Telnet セッションまたはブリッジ コンソール ポートへの接続で CLI を開きます。
2. 電源を入れ直してブリッジをリブートします。
3. コマンドプロンプトが表示され、ブリッジがイメージを立ち上げ始めるまでブリッジをブートします。CLI に次に似た行が表示されたら、**Esc** キーを押します。Loading  
"flash:/c1310-k9kw-7mx.v122\_15\_ja.200040314-k9w7-mx.v122\_15\_ja.20040314"  
...##### **注:** ブートローダーにアクセスするには、**Esc** キーを 2 回押す必要があります。ただし、この動作は使用するターミナル エミュレーション ソフトウェアによって異なります。次に似たメッセージが表示されます。Error loading "flash:/c1310-k9kw-7mx.v122\_15\_ja.200040314-k9w7-mx.v122\_15\_ja.20040314"  
  
Interrupt within 5 seconds to abort boot process.  
  
Boot process terminated.  
  
The system is unable to boot automatically. The BOOT environment variable needs to be set to a bootable image.  
  
C1310 Boot Loader (C1310-BOOT-M), Version 12.2 [BLD-v122\_15-ja\_throttle.20040314 100]  
  
bridge:  
4. bridge: プロンプトで、dir flash:: コマンドを発行し、フラッシュ ファイル システムのディレクトリを表示します。ディレクトリは、たとえば次のように表示されます。bridge: dir flash:  
  
Directory of flash:/  
  
2-rwx0<date>env\_vars  
5drwx384<date>C1310-k9w7-mx.v133\_15\_JA.20040314  
3-rwx1128<date>config.txt  
4-rwx5<date>private-config  
  
3693568 bytes available (4047872 bytes used)  
bridge:  
5. ファイル config.txt および env\_vars を削除するか、ファイル名を変更して、ブリッジをリブートします。**注:** ファイル名の前に必ず / 文字を付けてください。bridge: delete flash:/config.txt  
Are you sure you want to delete flash:/config.txt (y/n)?y  
File "flash:/config.txt" deleted  
  
bridge: delete flash:/env\_vars  
Are you sure you want to delete "flash:/env\_vars" (y/n)?y  
File "flash:/env\_vars" deleted  
6. boot コマンドを発行して、bridge: プロンプトでブリッジをリブートするか、ブリッジの電源を抜き差しします。  
7. ブリッジがリブートした後、Web ブラウザ インターフェイス、Telnet インターフェイス、

または Cisco IOS ソフトウェア コマンドでブリッジを再設定します。注: ブリッジは次を含む工場出荷時のデフォルトで設定されます。DHCP の IP アドレスを受信するように設定された IP アドレス。DHCP サーバがない場合、HTTP/HTTPS または Telnet を使ってデフォルトの IP アドレス 10.0.0.1 でブリッジにアクセスできます。Telnet または GUI 経由でブリッジへのアクセス権を取得すると、ブリッジの IP アドレスを変更することができます。注: このデフォルトの IP アドレス 10.0.0.1 が利用可能なのは、短い期間だけです。そのため、自分自身の IP アドレスをその期間内に必ず割り当ててください。デフォルトのユーザー名とパスワードである「Cisco」

## Aironet 350 シリーズ ブリッジ

### ソフトウェア バージョン 11.xx 以降の場合

コンソール ポートから 350 ブリッジを設定できるパスワードを忘れた場合は、設定をすべてリセットする必要があります。次の手順を実行して、現在の設定を削除し、すべての設定を工場出荷時のデフォルトに戻します。

1. 9 ピン オスと 9 ピン メスのコネクタの付いたストレート型ケーブルを使用して、コンピュータの COM 1 または COM 2 ポートをブリッジの RS-232 ポートに接続します。詳細は、『[コンソールおよび補助ポートに関するケーブル接続ガイド](#)』を参照してください。
2. コンピュータでターミナル エミュレーション プログラムを起動します。注: ここでは、ハイパーターミナルを使用した場合の手順を説明します。他のプログラムでも手順はほぼ同じです。
3. [Connection Description] ウィンドウに名前を入力します。
4. 接続用のアイコンを選択します。
5. [OK] をクリックします。
6. [Connection Description] ウィンドウでケーブルが接続されるポートを選択するために [Connect] プルダウン メニューを使用します。
7. [OK] をクリックします。
8. [Port Settings] ウィンドウで次の選択を行います。ビット/秒 (ボー) : 9600 データ ビット : 8/パリティ : なしストップ ビット : 1 フロー制御 : なし
9. [OK] をクリックします。
10. Enter キーを押します。
11. [Main Menu] 画面が表示されたら、ブリッジをリブートします。ユニットの電源をオフにしてからオンにします。
12. ブリッジ リブートおよび Summary Status 画面が再現するとき、発行して下さい: **resetall** コマンド。注: **resetall** コマンドは 2 分だけの間有効、直後にブリッジ リブートです。発行しないし、確認すれば: 2 分内の **resetall** コマンドは、ブリッジを再度リブートします。
13. Enter キーを押します。
14. Yes と入力します。
15. Enter を押してコマンドを確認します。
16. ブリッジがリブートして [Express Setup] 画面が表示されたら、ターミナル エミュレータまたはインターネット ブラウザでブリッジを再設定します。

```
BR350-4060be                Express Setup                Uptime: 00:01:21

System [Name                  ] [BR350-4060be                ]
[Terminal Type                ] [teletype                    ]
MAC Address                   : 00:40:96:40:60:be
Config. Server [Protocol      ] [DHCP                        ]
IP [Address                    ] [10.0.0.1                    ]
IP [Subnet Mask                ] [255.255.255.0              ]
Default [Gateway               ] [255.255.255.255            ]

[Radio Service Set ID (SSID)] [tsunami                     ]
[Role in Radio Network       ] [Root Bridge                  ]
[Optimize Radio Network For ] [Throughput                   ] [Hw Radio]
Ensure Compatibility With:  [2Mb/sec Clients] [_]      [non-Aironet 802.11] [_]

[SNMP Admin. Community       ] [                               ]

[Apply] [OK]   [Cancel] [Restore Defaults]

[Home] - [Network] - [Associations] - [Setup] - [Logs] - [Help]
[END]

(Auto Apply On) ^R, =, <ENTER>, or [Link Text]: _
```

## Aironet 340 シリーズブリッジ

### ソフトウェア バージョン 8.65 以降の場合

コンソールポートから340ブリッジを設定できるパスワードを忘れた場合は、設定をすべてリセットする必要があります。次の手順を実行して、現在の設定を削除し、すべての設定を工場出荷時のデフォルトに戻します。

1. 9ピンオスと9ピンメスのコネクタの付いたストレート型ケーブルを使用して、コンピュータのCOM1またはCOM2ポートをブリッジのRS-232ポートに接続します。詳細は、『[コンソールおよび補助ポートに関するケーブル接続ガイド](#)』を参照してください。
2. コンピュータでターミナルエミュレーションプログラムを起動します。注: ここでは、ハイパーターミナルを使用した場合の手順を説明します。他のプログラムでも手順はほぼ同じです。
3. [Connection Description] ウィンドウに名前を入力します。
4. 接続用のアイコンを選択します。
5. [OK] をクリックします。
6. [Connection Description] ウィンドウでケーブルが接続されるポートを選択するために [Connect] プルダウンメニューを使用します。
7. [OK] をクリックします。
8. [Port Settings] ウィンドウで次の選択を行います。ビット/秒 (ボー) : 9600データビット : 8パリティ : なしストップビット : 1フロー制御 : なし
9. [OK] をクリックします。
10. [Connection Description] ウィンドウで、名前を入力して、接続用のアイコンを選択します。
11. [OK] をクリックします。
12. Enter キーを押します。
13. [Main Menu] 画面が表示されたら、ブリッジをリブートします。ユニットの電源をオフに

してからオンにします。

14. ブリッジがリブートして [Main Menu] 画面が再度表示されたら、リセットを選択するために 2 を入力します。
15. **Enter** キーを押します。
16. **Yes** と入力します。
17. **Enter** を押してコマンドを確認します。
18. ブリッジがリブートして [Express Setup] 画面が表示されたら、ターミナル エミュレータまたはインターネット ブラウザでブリッジを再設定します。

## [8.65 よりも前のソフトウェア バージョンの場合](#)

Aironet 340 シリーズ イーサネット ブリッジのパスワードがわからない場合、そのユニットをサービス担当に戻す必要があります。

注: 場合によっては、パスワードがわからないブリッジに接続しているブリッジがアクセス可能であることがあります。アクセス可能なブリッジがバージョン 8.65 以降で動作していることを確認して、**Distribute Firmware** コマンドを使用して、パスワードがわからないブリッジをアップグレードします。Return Material Authorization ( RMA ) のダウンタイムなしで、「[ソフトウェア バージョン 8.65 以降の場合](#)」セクションの手順を適用できます。

登録ユーザは、シスコ テクニカル サポートの [TAC Service Request Tool](#) ( [登録ユーザ専用](#) ) でサービス リクエストを作成できます。すべてのユーザは、[Cisco Worldwide Contacts](#) ページ経由で、E メールまたは電話を使用してシスコのテクニカル サポートに問い合わせることができます。

## [ワークグループ ブリッジ](#)

Aironet Workgroup Bridge ( WGB; ワークグループ ブリッジ ) では、独立した有線 LAN セグメントにある最大 8 つのホストが 1 つの AP への単一のワイヤレス接続を共有できます。これによって、ホストはネットワークの他の部分にアクセスできます。

『Cisco Aironet ワークグループ ブリッジに関する Q&A』の「[ワークグループ ブリッジを工場出荷時の設定に戻すには、どうすればよいですか](#)」の項で説明されている手順に従うと、WGB を工場出荷時のデフォルトにリセットできます。

## [関連情報](#)

- [Cisco Aironet アクセス ポイントのための Cisco IOS ソフトウェア設定ガイド、Cisco IOS リリース 12.4\(10b\)JA および 12.3\(8\)JEC](#)
- [Cisco Aironet ワークグループ ブリッジに関する FAQ](#)
- [セキュリティ機能の有効化](#)
- [Cisco Aironet アクセス ポイントに関する FAQ](#)
- [Cisco Aironet 1400 シリーズ Cisco Aironet イーサネット ブリッジおよび WGB に関する FAQ](#)
- [ワイヤレス LAN コントローラ モジュール \( WLCM \) とワイヤレス サービス モジュール \( WiSM \) 用のパスワード回復手順](#)
- [ワイヤレス LAN コントローラ \( WLC \) に関する FAQ](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)

このドキュメントは有用でしたか。 [はい いいえ](#)

フィードバックいただき、ありがとうございました。

[サポート ケースのオープン](#) ( [シスコ サービス契約< ts generic='1' nval='P%1,2%%'が必要ですか](#) )。

## Cisco サポート コミュニティ - 特集対話

[Cisco サポート コミュニティ](#)では、フォーラムに参加して情報交換することができます。

このドキュメントで使用されている表記法の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

Updated: 2015 年 10 月 02 日

Document ID: 9215